

CHIBA PARASPORTS PROJECT (千葉パラスポーツプロジェクト) ハンドブック NPO 法人スマイルクラブ

令和2年度 スポーツ庁委託事業
『障害者スポーツ推進プロジェクト』
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

目次

はじめに 1

「障害者スポーツ推進プロジェクト」にあたり 2

「障害者スポーツ推進プロジェクト」概要 3

1 総合型地域スポーツクラブについて4

1. 全国および千葉県の状況
2. 新認証制度

2 千葉県でのオリンピックとパラリンピック開催について7

1. オリンピック・パラリンピックの競技と競技会場
2. 千葉県で開催されるオリンピック競技
3. 千葉県で開催されるパラリンピック競技

3 千葉県での総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツ事例9

1. 大穴スポーツクラブの設立経緯とNPO法人スマイルクラブ
2. NPO 法人スマイルクラブ

4 パラスポーツ紹介（パラバドミントン） 16

1. クラス分け
2. コート
3. 競技用車いすと通常的車いす
4. 車いすに乗ってバドミントンをしよう
 - 千葉県のパラバドミントン選手紹介 大濱 真（パラバドミントン選手）

5 新型コロナウイルス感染症予防等 20

1. 日常生活の注意
2. スポーツを行う／スポーツイベントに参加する際の注意
3. スポーツ会場での注意
4. 帰宅したら
5. 管理者の注意事項

6 千葉県の活躍期待選手のインタビュー 23

- 「選択肢が広がる社会へ」 香西 宏昭（車いすバスケットボール選手）
「スポーツを通して豊かな人生を」 樋口 政幸（パラ陸上競技選手）

はじめに

NPO 法人スマイルクラブは、2000年に総合型地域スポーツクラブ（以下 地域スポーツクラブ）としてスタートしました。ちょうど、スポーツ振興基本計画として文科省が各市町村に1つのクラブを設立目標として推進された年でもあります。それから20年が経過し、日本の地域スポーツクラブ数は2019年3月のスポーツ庁の報告書によれば、全国に3,599件（クラブ育成率80.8%）となっており、ほぼ横ばい状態となっています。

20年経過した私たち地域スポーツクラブは、地域にどこまで貢献できたのか？あるいは地域の人たちにどこまで受け入れられたのか？特にこの2020年度は新型コロナウイルス感染症で始まり、終わりました。このような時代に、地域スポーツクラブは何ができたのか？を毎日考えながら活動しています。

2020年4月の緊急事態宣言で学校施設や公共施設等が使えず、スポーツ活動がまったくできず大変な年でもありました。さらには2021年1月に2度目の緊急事態宣言が発出され、再度スポーツ教室での収入は閉ざされ、どうやって運営をしていけばいいのかを模索していました。おそらく多くの地域スポーツクラブは、このような状況ではないかと推察いたします。

一方でドイツの地域スポーツクラブとの交流も、コロナまでは10年連続しておこなってきました。そこでの大きなヒントは「社会公益性」（福祉分野や医療連携領域など）というテーマでした。つまり、障がい児（者）や運動療法など地域のいろいろな方に必要なプログラムも積極的に取り入れ、地域の人材（障がい児指導専門家や医療関係者等）を活用しながら活動している姿でした。

そして、今回スポーツ庁「障害者スポーツ推進プロジェクト」に採択され、このテーマについて、地域スポーツクラブとしてどう考え、スマイルクラブの地元である千葉県の協力を得ながら進めてまいりました。そしてこのハンドブックが皆様にどれほどお役に立てるかはわかりませんが、一つのヒントとしてお役に立つことができれば幸甚と考えておりますので、どうぞこの機会にご一読いただければと存じます。

2021年3月
NPO 法人スマイルクラブ
理事長 大浜あつ子

「障害者スポーツ推進プロジェクト」にあたり

今回のスポーツ庁委託事業は、障がい者(このハンドブックの中では、基本的に「障がい」を使用)スポーツ推進のために、その受け皿のひとつとなっている総合型地域スポーツクラブ(以下 地域スポーツクラブ)であるスマイルクラブが、千葉県と連携しモデル的に障がい者スポーツのイベントや人材養成などを、学校や地域の体育館等で直接おこなう予定でした。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発出され、学校も休校となり、外出も制限され、直接事業をおこなうことができなくなり、コロナ時でも対応できる方向へ内容を変更せざるを得ませんでした。

本来、スポーツは直接見たり、聞いたり、体験したりすることで「感動」、「すばらしさ」、「むずかしさ」など様々なものを伝えることができますが、今回の感染症により、新たな伝え方を創出しそれにチャレンジし、もって障がい者スポーツの推進をはかりたいと考えました。

一方で、地域スポーツクラブはこの新型コロナウイルス感染症により学校開放による体育館等の施設が使えなくなり、活動休止をせざるをえず、経営的に苦しい状況でもあることも報告されています。

そのような中、2021年1月に2度目の緊急事態宣言が発出され、それに拍車をかけている状況です。

そこでこのような困難な時代に、この委託事業をきっかけに地域スポーツの今後の運営のひとつのキーワードとして「社会公益性」(福祉領域や医療連携等)を掲げ、その具体的な事例についてもご紹介することで、この事業がさらに発展できるものと考え、「社会公益性」に関する具体的な事例も追加させていただきました。

なぜならそのことで、このコロナの時代に障がい者スポーツの受け皿となっている全国の地域スポーツクラブの自立継続のための、きっかけにもつながると考えたからです。そして多くの地域の方々に喜んでもらえるクラブとなり、必要で愛されるクラブとしても深化できるものと考えたからです。

今回のハンドブックが学校や地域スポーツクラブ等、多くの皆様に少しでもお役に立つことができればうれしい限りです。

最後に今回の事業で、千葉県はじめ委員の方々など多くの方にご協力いただき、このハンドブックができあがりましたので、この紙面を借り、あらためて厚くお礼申し上げます。

2021年3月

NPO法人スマイルクラブ理事

本プロジェクト事務局責任者 大浜三平

「障害者スポーツ推進プロジェクト」概要

1 本プロジェクトの目的

総合型地域スポーツクラブ、千葉県と連携し、障がい者スポーツをおこなう際の感染予防や対策にも考慮した、障がい者スポーツハンドブックを作成することにより、障がいのある人も施設や自宅等でスポーツを楽しむことができる環境を整備することを目的とする。

2 目標（下記成果物とその配布）

- 1) 障がい者スポーツハンドブックの作成
- 2) パラスポーツ紹介事例（パラバドミントン）動画作成
パラバドミントンの動画作成し、CDとして配布
- 3) 上記ハンドブックおよびCDの配布による普及
学校、地域スポーツクラブ等

3 方法

- 1) 委員会の開催（※各委員については、下記参照）
- 2) 事務局の設置
- 3) 関係者への成果物の配布

4 委員会委員（敬称略、順不同）

- 1) 委員長 大浜 あつ子（NPO 法人スマイルクラブ理事長）
- 2) 委員 渡邊 国剛（千葉県教育庁教育振興部体育課スポーツ推進室生涯スポーツ班）
- 3) 同 桃木 一（同上）
- 4) 同 安藤 裕一（株式会社 GMSS ヒューマンラボ代表取締役、医師、スポーツドクター）
- 5) 同 谷藤 千香（千葉大学大学院国際学術研究院准教授）
- 6) 同 兒玉 友（日本福祉大学スポーツ科学部助教）
- 7) 同 大浜 真（NPO 法人スマイルクラブ所属、パラバドミントン選手）
- 8) 事務局 大浜 三平（NPO 法人スマイルクラブ理事）
久保田 いずみ（事務局スタッフ）

1 総合型地域スポーツクラブについて

1. 全国および千葉県の状況

総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブを言います。1995年より文部省が育成モデル事業を実施し、2000年に策定された「スポーツ振興基本計画」において、生涯スポーツ社会の実現のため必要不可欠な施策として総合型地域スポーツクラブの全国展開が盛り込まれ、多くのクラブが設立されました。総合型クラブは、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手として、また地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

「令和元年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」によると、2019年7月1日現在で、創設済みクラブ数 3,461、創設準備中クラブ数 143、クラブ育成率※は 80.5%となっています。また、千葉県における育成状況は、創設済みクラブ 82、創設準備中クラブ 10、クラブ育成率 66.7%と全国的にみて高いとは言い難い状況です。

※クラブ育成率：創設済み又は創設準備中クラブがある市町村数 / 市区町村数

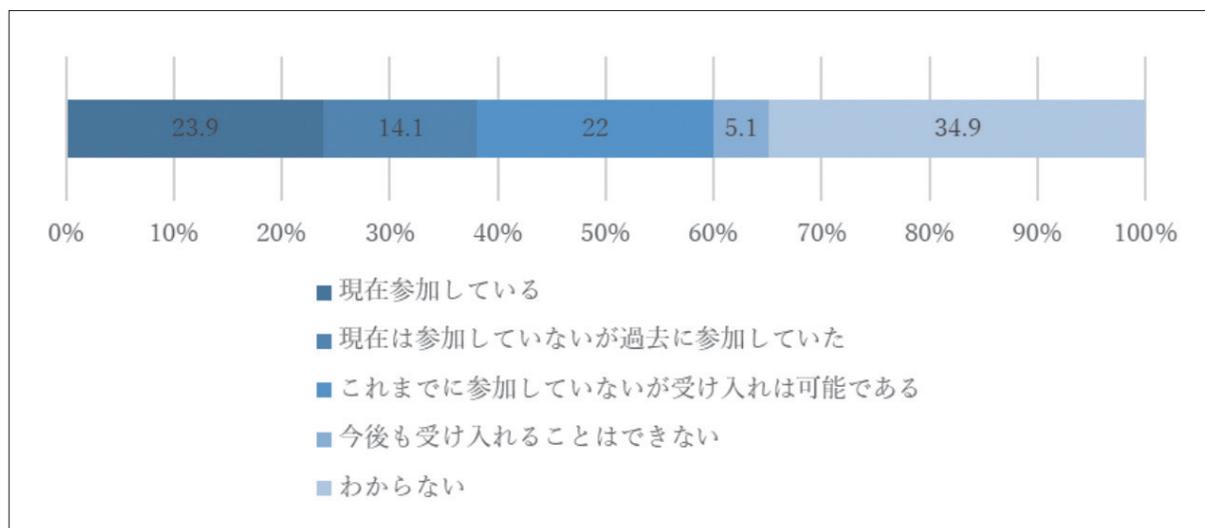
表1 総合型地域スポーツクラブ育成状況

	市区町村	創設済み	準備中	育成クラブ数	育成市町村	育成率※
全国	1,741	3,461	143	3,604	1,401	80.5%
千葉県	54	86	10	96	41	75.9%

2012年に策定された「スポーツ基本計画」において、総合型クラブの自主性・主体性を支える重要な要素である財源などの状況が分析され、自己財源率が50%以下のクラブが半数以上を占め、財政基盤が弱いクラブが多いことや、また、総合型クラブの認知度は決して高くなく、クラブの理念・趣旨、特徴、地域住民の関与の仕方等に関わる情報が広く行き渡っていないことが指摘され、総合型クラブが、より自立的に運営することができるよう運営面や指導面において周辺の地域スポーツクラブを支えることができる拠点クラブを育成することなどが施策目標として掲げられました。さらに2017年に発表された「第2期スポーツ基本計画」においては、総合型クラブ数の量的拡大から質的な充実により重点を移し、クラブの登録・認証等の整備、中間支援組織の整備、PDCAサイクルにより運営の改善等を図る総合型クラブの増加、地域課題解決に向けた取り組みを行うクラブの増加、障がい者の参加促進などが言及されました。

前述の「令和元年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」によると、総合型クラブでは、地域の課題解決に向けて、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、学校との連携、障がい者スポーツの推進など様々な取り組みが実施されています。障がい者の参加状況については、「現在参加している」

23.9%、「現在は参加していないが過去に参加していた」14.1%、「これまでに参加していないが受け入れは可能である」22.0%と受け入れ体制が整いつつある一方で、「今後も受け入れることはできない」5.1%、「わからない」34.9%と障がい者の受け入れについての情報が不足している可能性が推察されます。



活動への障がい者の参加

また障がい者の参加状況としては、「プログラム・イベント等に障がい者のための特別な配慮をしている」、「障がい者のみを対象とするプログラム・イベント等を用意している」、「障がい者のためのチームがある」など様々ですが、受け入れ実績のあるクラブが障がい者への配慮の仕方、障がい者に適したプログラムやイベントの情報、障がい者のチームの活躍の場などについて、具体的な情報を発信することで、より多くのクラブが受け入れ可能となると考えられます。

なお、千葉県における障がい者の参加事例としては、主に以下のクラブが挙げられます。

- スマイルクラブ：発達障がい児の教室、パラスポーツ普及事業など
- 大穴スポーツクラブ：知的障がい児の運動教室（スマイルクラブと連携）
- 市川スポーツガーデン国府台：車いすバスケットボール（「NO EXCUSE」と連携）
- 四小元気会：機能障がい者指導
- 矢切スポーツクラブ：県立矢切特別支援学校との交流

2. 新認証制度

総合型地域スポーツクラブ育成推進事業は、2004年から日本体育協会（2018年に日本スポーツ協会に改称）に委嘱・委託され、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度についても日本スポーツ協会の組織内組織である「総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC 全国ネットワーク）」を基盤に整備をおこなっています。登録・認証制度の目的は、総合型クラブが行政と連携して公益的な取り組みを行うことを促進すること、総合型クラブにPDCAサイクルが定着することによって質の充実を図ること等が挙げられますが、クラブにとっては「総合型クラブの社会的認知度の向上」「行政における総合型クラブへの理解促進」が挙げられます。

登録・認証制度の考え方は概ね以下のとおりです。

■ 「登録」「登録基準」について

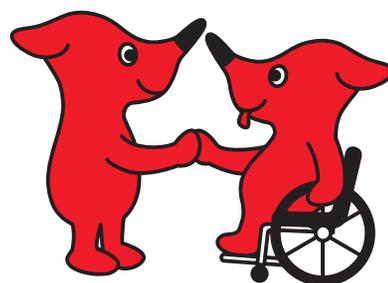
- 登録とは、総合型クラブからの申請に基づき、制度の運用主体が「登録基準」に合致したと判断した場合に、総合型クラブとしての名簿に記載する手続きとする。
- 多世代、多種目、多志向という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブであること。
- 自主的・自立的に運営されるために必要な持続可能な運営体制や活動に見合った財源が確保されていること。
- 規約に基づく運営や自己点検・評価に基づく活動計画の作成など、公的機関・組織と連携した公益的な取組を促進するために必要となるガバナンスが確保されていること。
- 以上の要件に加えて、各都道府県において地域の実情に応じた独自の登録基準を加えることや基準の適用範囲を判断できる制度とする。また、全ての要件等が満たされないクラブに対する支援を行うなど、育成・支援をするための基準として運用していく。

■ 「認証」「認証基準」

- 当該クラブが登録手続きを完了した後に、制度の運用主体があらかじめタイプ別に用意した「認証基準」のいずれかのタイプに当該クラブを当てはめ、タイプに応じて当該クラブを称する手続きとする。
- 総合型クラブが地域課題に応えるための「社会的な仕組み」として定着していくことを目指すため、「運動・スポーツによる介護予防事業の実施」「放課後児童クラブ・放課後子供教室におけるスポーツ活動の機会の提供」「学校運動部活動において学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備」等のそれぞれのタイプ別に、認証の基本的要件を定める。

登録・認証制度は日本スポーツ協会が運用主体となり、登録・認証の手続・審査は都道府県単位で、都道府県スポーツ協会と都道府県総合型クラブ連絡協議会が主体となるなど、都道府県の実情に応じた運用体制の構築が必要と考えられます。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響に鑑み、登録・認証制度の運用開始時期は令和3年4月1日から令和4年4月1日に延期することになりました。



2 千葉県でのオリンピックとパラリンピック開催について

1. オリンピック・パラリンピックの競技と競技会場

千葉県で開催される競技

Sports to be held in Chiba

幕張メッセ (千葉市)

オリンピック競技

- フェンシング (Fencing)
- テコンドー (Taekwondo)
- レスリング (Wrestling)
- サーフィン (Surfing)

パラリンピック競技

- ゴールボール (Goalball)
- シッティングバレーボール (Sitting Volleyball)
- パラテコンドー (Para-Taekwondo)
- 車いすフェンシング (Wheelchair Fencing)

連絡先 CONTACT

千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局事前キャンプ・大会競技支援課
 電話 043-223-2428
 メール chibaop01@mz.pref.chiba.lg.jp

ホームページ 検索

フェイスブック 検索

競技会場

Competition venues

幕張メッセ Makuhari Messe

1989年に開業した複合コンベンション施設。「国際展示場」「国際会議場」「幕張イベントホール」の3施設で構成され、国内最大規模の音楽イベントや文化イベントが開催されている。

- オリンピック競技 フェンシング、テコンドー、レスリング
- パラリンピック競技 ゴールボール、シッティングバレーボール、パラテコンドー、車いすフェンシング

釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ Tsurigasaki Surfing Beach

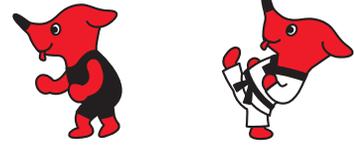
九十九里浜の最南端に位置している。この海岸は波面が強く、力強い波が発生することから、サーフィンの国際大会も開催され、プロや上級者のサーファーが集まる。

- オリンピック競技 サーフィン

千葉県 HP (<https://www.pref.chiba.lg.jp/>) より引用



2. 千葉県で開催されるオリンピックの競技

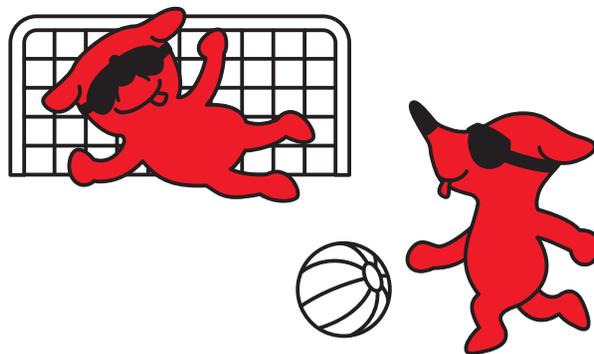


<h3>テコンドー</h3> <p>Taekwondo</p>  <p>2000年のシドニーオリンピックから正式競技として実施されている。手と足をを使って攻撃をすることができ、足を使った攻撃が特徴的な競技。攻撃が有効か無効かは、防具に付けた電子センサーが機械的に判定する。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Aホール 日程▶7月24日(土)～7月27日(火)</p> <p>闘い技が豊富でスピードがあり、選手の性格によって様々な闘い方があるところが魅力です。</p> <p>田本 依子 2000 シドニーオリンピック 女子67kg級 銅メダル</p> <p>Point 試合はポイント制で、攻撃の種類や当たった部位によってポイントが通らうよ!</p>	<h3>レスリング</h3> <p>Wrestling</p>  <p>マット上にある直径9mのサークル内で、2人の競技者が、素手で攻防する競技。タックルや投げ技。両者が伏せた状態で攻防を行う。「グレコローマンスタイル」は、上半身のみで攻防を行い、「フリースタイル」は、全身のどを攻めてもよい。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Aホール 日程▶8月1日(日)～8月7日(土)</p> <p>レスリング競技が千葉県で開催されることを大変嬉しく思います。絶対に金メダルを獲得して今まで支えてくれた全ての人に感謝し、できる限り頑張ります。応援よろしくお願いします!</p> <p>須崎 耀衣 (千葉県立中野高等学校) 2018 世界選手権女子50kg級 優勝 2019 全日本選手権女子50kg級 優勝</p> <p>Point レスリングは1896年の第1回アテネ大会からオリンピック競技となっているよ!</p>	<h3>フェンシング</h3> <p>Fencing</p>  <p>ピストと呼ばれる長方形の試合場の中で2人が互いに向き合い、武器(剣)を用いて攻撃または防御を行う競技。使用する武器(剣)と防具には電気回路が埋め込まれており、攻撃が成功するとランプが点灯する。「フルールー」、「エペ」、「サーブル」の3種目がある。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Bホール 日程▶7月24日(土)～8月1日(日)</p> <p>決まった型ではなく選手によって個性がでます。応援の中で違いを見つけみてください!</p> <p>三宅 健 (千葉県立中野高等学校) 2012 ロンドンオリンピック 男子フルールー団体 銅メダル</p> <p>Point ヨーロッパで発展した剣術が元になった競技だよ!</p>	<h3>サーフィン</h3> <p>Surfing</p>  <p>制限時間内でも何回も複数の選手が対戦し、勝敗を決定する。良い波を見極め、難易度の高いターンやエアリアル(空中に舞い上がる技)を繰り返すことで高得点を獲得することができる。</p> <p>会場名▶釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ 日程▶7月25日(日)～7月28日(水) 7月25日(日)～8月1日(日)にはサーフィンフェスティバルを開催</p> <p>水面を自由に滑るスピード感がサーフィンの魅力。一宮の波もサイコーです。</p> <p>大原 洋人 (千葉県立第一高等学校) 千葉県特別強化指定選手 2015 Vans of US Open Of Surfing 優勝</p> <p>Point 東京2020オリンピックで初めて正式競技に採用されるよ!</p>
---	---	--	---

3. 千葉県で開催されるパラリンピックの競技



<h3>パラテコンドー</h3> <p>Para-Taekwondo</p>  <p>キョルギ(相手、身体障害者選手)と、プムセ(型、知的障害者選手)の2種目があり、東京2020パラリンピックでは、キョルギの採用が正式に決定! テコンドー同様、鮮やかな蹴り目に注目。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Bホール 日程▶9月2日(水)～9月4日(土)</p> <p>華麗に繰り広げられる足技の数々。選手各々の上肢障がいの特性を活かした戦術は必見!</p> <p>太田 沙希 2019 第12回世界パラテコンドー選手権大会 銅メダル 2019 第12回全日本パラテコンドー選手権大会 優勝</p> <p>Point ルールはテコンドーとほぼ同じだけど、顔への攻撃は禁止されているよ!</p>	<h3>車いすフェンシング</h3> <p>Wheelchair Fencing</p>  <p>ピストと呼ばれる台に車いすを固定して行うフェンシング競技。ユニフォームや剣、マスクなどは一般のフェンシングと同じものを使用する。「フルールー」、「エペ」、「サーブル」の3種目があり、障害の種類や程度によって2つのクラスに分かれる。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Bホール 日程▶8月25日(水)～8月29日(土)</p> <p>剣のコントロールとスピードが勝負を分けるポイントです!</p> <p>安 直樹 2004 アテネパラリンピック 輪椅子フェンシング代表 2016 車いすフェンシング日本選手権 優勝</p> <p>Point 「ピスト」と呼ばれる特殊な器具で、車いすを地面に固定するよ!</p>	<h3>ゴールボール</h3> <p>Goalball</p>  <p>視覚障害者が行う競技で、1チーム3人の選手がアイシールド(目隠し)を着用して戦う。攻撃はコート内で1.25kgの鈴入りのボールを転がしたり、バウンドさせて相手ゴールにボールを投入。前後半各12分で争う。守備は鈴の音や相手の足音を聞き分け、体全体で防衛する。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Cホール 日程▶8月25日(水)～9月3日(金)</p> <p>東京大会が開催出来ることに感じます。優勝に向けて日々精進していきます。</p> <p>佐野 優人 (順天大学在学) 2019 Asian Pacific 選手権大会 銅メダル</p> <p>Point ボールの中に鈴が入っているから転がすと音がするよ!</p>	<h3>シットイングバレーボール</h3> <p>Sitting Volleyball</p>  <p>床に臀部(でんぷ)の一部を常に接触したまま行う6人制バレーボール。球は一般のバレーボールと同じで、コートは一般のものより狭く、ネットも低い設定。サーブ権の無い25点先取(第5セットのみ15点)の5セットマッチ。</p> <p>会場名▶幕張メッセ Aホール 日程▶8月27日(金)～9月5日(日)</p> <p>高さのある外周壁に立ち向かう日本チームの見所はスピードとチームワークです。息の合ったコンビプレーを是非ご覧ください。</p> <p>加藤 昌彦 (千葉パレックス) 2000 シドニーパラリンピック 9位 2004 アテネパラリンピック 9位</p> <p>Point バレーボールと違って、サーブをブロックすることができるよ!</p>
---	---	---	--



3 千葉県での総合型地域スポーツクラブでの障がい者スポーツ事例

1. 大穴スポーツクラブの設立経緯とNPO法人スマイルクラブ

大穴地区は平成8年から2年間、文部省（現文部科学省）の「スポーツ活動推進モデル地域」として指定を受け、さらに3年間、船橋市教育委員会のモデル地区指定事業としてご指導をいただき平成10年4月ジュニア部、9月シニア部が発足し、千葉県初の総合型地域スポーツクラブの大穴スポーツクラブが誕生しました。大穴地区は昭和30年後半から40年代にかけて宅地開発が盛んにおこなわれインフラ整備が急務で、そのために住民の交流と結束が不可欠でした。そして手段の一つとして考えられたのが運動会の開催でした。それを契機として各種スポーツ活動が盛んになり、現在の大穴スポーツクラブの礎となりました。大穴スポーツクラブの活動場所は、地区内にある小中3校の体育施設開放利用を主な拠点とし、その他公民館、市の大穴近隣公園、大穴多目的広場、保健センター、自治会館など豊富に確保されております。学校体育施設の利用については、「3校学校体育施設開放利用運営委員会」を設置し、クラブ加盟80余団体による年間利用調整会議を経て利用しています。また、ジュニア部の活動は学校の部活動と位置づけて、活動時間は従来の部活動に準じております。シニア部は主に夜間とジュニア部の空いた時間に開放利用しています。大穴スポーツクラブのコンセプトは「スポーツ活動を通して健康なまちづくり」「楽しいスポーツライフ」以て地域に貢献することです。

大穴地区は前述の通りの事情により昭和48年の第1回大会から今日まで、長年にわたって住民の健康増進と住民および各町・自治会の交流、絆を深める事業として運動会を開催しており、そのコンセプトの一つに運動の苦手な子ども（障がい者）の参加を奨励し、交流を深めた経緯がありました。しかし、継続して定期的に行うためには、障がい者に対する専門的知識と資格取得の指導者の確保など高いハードルがありました。折しも船橋市の障がい児の保護者よりスマイルクラブさんに教室開催の要望により、主宰者の大浜さんからアプローチを受け、素晴らしいコンセプトと高い指導力のある「スマイルクラブ」に全面的に事業委託し、大穴スポーツクラブの構成員として活動をしていただいております。そして、現在では大穴地区のみならず地区外の障がい児たちも参加しており、今更ながらスマイルクラブさんには感謝でいっぱいです。

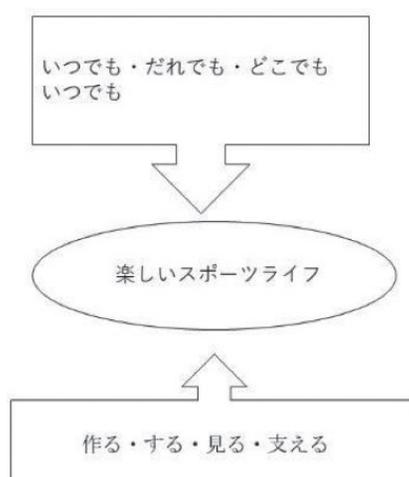


図 大穴スポーツクラブの活動スタイル

■大穴スポーツクラブの活動



スポーツ講習会



アジアからジュニア部の活動を視察来訪



パークゴルフ大会の開会式



太極拳の模範演舞

2. NPO法人スマイルクラブ

1 社会公益性をテーマとした活動のきっかけ

スマイルクラブはもともと体育教師であった理事長大浜あつ子が、自閉症児の母親から「学校の体育授業についていけないので、自分の子どもを見てくれませんか？」との依頼から2000年にNPO（兼文部科学省の総合型地域スポーツクラブ）としてスタートし、主に発達障がい者（児含む）を対象に運動やスポーツによる社会的自立を目的として運動教室「運動が苦手な子の教室（以下「苦手教室」）」（学校体育館等で実施）をおこなってきました。また理事長大浜あつ子がバレーボールを大学まで実践してきたこともあり、一般のバレーボール種目を中心としたスポーツ教室もスタートし、元オリンピック選手もコーチとして教室指導に携わっていただいています。現在は、バレーボールのほかに、バスケットボールやバドミントン種目も追加し、教室も開催しています。

2016年から新たに放課後等デイサービス事業（障がい者の個別運動指導に特化した事業）もスタートし、現在約400人（苦手教室約200人、放課後等デイサービス事業約200人 計400人）の障がい者が在籍し、毎日スポーツや運動を楽しんでいます。

2 現在の活動状況

1) アダプテッドスポーツ（障がい者スポーツ）事業（在籍者数 約200人）

- ①障がい者も参加できる運動教室（発達障がい児、知的障がい児、ダウン症等）

※健常者も参加できるインクルーシブ形式

a) 「運動が苦手な子の教室」(主に小学生、中学生) (写真1)

b) 「チャレンジスポーツ教室」(主に高校生以上) (写真2)

②様々なパラスポーツおよび障がい者スポーツイベント(大会、体験会等)(参加者数 3,336名)

a) シットイングバレーボール大会(身体障がい) (写真3)

b) デフバレー大会(聴覚障がい)

c) IDバレーボール大会(知的障がい)

d) フロアバレーボール大会(視覚障がい)

e) パラバドミントン大会・体験会 3,124名(千葉県、山口県、熊本県、鹿児島県等)

毎年開催(毎年、開催地域も拡大) 2019年度実績合計数は、3,336名(写真4)

2) 児童発達支援事業および放課後等デイサービス事業(在籍者数 約200人) (写真5)

発達障がい者の個別運動指導教室「スマイルスポーツ塾」(千葉県柏市、松戸市の2か所)

※スマイルクラブは、マンツーマンの運動指導に特化したデイサービスを実施

3) シニア事業(高齢者) 在籍 約100名(2019年度実績、2020年度は休止中)

(2019年4月まで健康教室開催であったが、現在リニューアル中)

人生100年プログラム・・・100歳までできるバレーボール開発中(現在進行中) (写真6)

スマイルタウン事業(スマイルハウス等)

4) スポーツ教室(一般)(在籍数 約390名) (写真7、8、9)

バレーボール教室(250名) バスケットボール教室(60名) バドミントン教室(80名)

5) 行政との連携

①柏市協働事業「学校体育授業サポート」事業

2006年～2017年まで継続(毎年市内小学校40校中、10校の特別支援学級の体育指導)

現在は協働事業から各学校ごとの契約で毎年2～3校で実施

②柏市教育委員会委託事業「鉄棒上達教室」、「運動教室」等

2006年～現在 毎年4～5校で実施

③横浜市南区委託事業「作業所の障がい者のスポーツ指導」(メタボ予防)等

横浜市南区内の作業所から、肥満(メタボ予防)予防のための運動指導を実施

2010年～現在 年間5回程度で毎回80名程度が参加 延べ400名/年

④文部科学省委託事業「障がい者を対象とした「一生涯スポーツ」柏モデル事業」2019年度

柏市障がい者スポーツ推進連絡会(柏市スポーツ課等)との共催で、主に発達障がいおよび知的障がいを対象に障がい者スポーツ指導員(スマイルボランティア)を養成(約40名)し、特別支援学校、福祉施設、スマイルクラブの教室等で運動指導をおこなう事業。スマイルボランティアの参加は延べ約100名、教室参加者は延べ約300名となった。

⑤スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」2020年度

千葉県と連携し、障がい者スポーツの普及を目指した事業を展開中。

6) 国際交流

①国際ワークショップ (写真10)

②アジア(中国) (写真11)

③ヨーロッパ(ドイツ、イギリス等) (写真12)

3 事業収支等の推移（10年間）

10年間の収支推移

単位：千円	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 見込
収入 (経常収益)	40,759	45,670	48,467	46,283	70,423	84,647	97,200	115,516	105,294	93,274
支出 (経常費用)	41,941	46,294	47,141	47,262	70,028	84,153	96,699	114,060	104,727	89,861
収支差 (経常増減額)	▲ 1,182	▲ 624	1,326	▲ 979	395	494	501	1,456	567	3,413

社会公益性のあるプログラム（障がい者のプログラム「運動が苦手な子の教室」や「放課後等デイサービス事業」等）をおこなうことで、継続

4 写真で見る活動の様子



写真1 運動が苦手な子の教室

学校での体育メニュー（鉄棒、跳び箱、マットなど）を中心におこなっています



写真2 チャレンジスポーツ教室

一生涯楽しめるようなメニュー（風船バレー、バドミントンなど）を中心におこなっています



写真3 障がい者スポーツイベント（シッティングバレー）



写真4 障がい者スポーツイベント（パラバドミントン出前授業）



写真5 放課後等デイサービス事業

スマイルスポーツ塾



写真6 シニア事業

100歳バレー



写真7 バレーボール教室



写真8 バスケットボール教室



写真9 バドミントン教室



写真10 国際交流 国際ワークショップ
2019年10月東京で開催（日本、中国、ドイツ、アメリカ）



写真11 国際交流
中国 中山大学等との交流



写真12 国際交流
ドイツ、イギリス等の交流

5 「主な受賞歴」

- ◆ 2008年 読売新聞「読売福祉文化賞」受賞
発達障がい児の運動教室「運動苦手な子の教室」の実績による、新時代にふさわしい福祉活動に取り組んでいる活動が評価された。
- ◆ 2010年 「かめのり賞」受賞
アジアワークショップなどアジア（日本、韓国、中国、タイ）における障がい者スポーツにかかわる活動が評価された。
- ◆ 2010年 Amway「one by one アワード」受賞
「運動が苦手な子の教室」を通じて、子どもたちの生活向上支援として新たな可能性を見出したことが評価された。
- ◆ 2012年 第一生命「保健文化賞」受賞
日本の総合型地域スポーツクラブとしてはじめての受賞。障がい者も健常者も身近にスポーツを楽しめる環境づくりや、ボランティアの養成、アジアへのネットワークの構築などが評価された。天皇皇后両陛下のご拝謁を皇居にて賜る。
- ◆ 2012年 博報堂「博報賞」および文部科学大臣奨励賞を受賞
特別支援教育部門においての受賞。「運動が苦手な子の教室」の活動が評価される。
- ◆ 2013年 社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」受賞
社会福祉や青少年育成などへの表彰で、スマイルクラブのNPOとしての活動が評価される。

- ◆ 2015年 Google インパクトチャレンジ賞受賞
障がい者も高齢者も笑顔で住める街「スマイルタウン」を目指し、モバイルジムを提案し、受賞につながる。
- ◆ 2017年 千葉県生涯スポーツ優良団体受賞

6 「理事長 大浜あつ子略歴」

1. 理事長略歴

東京生まれ 筑波大学体育専門学群卒業、横浜市立中学校教諭
2000年 NPO 法人スマイルクラブ設立と同時に理事長就任
流通経済大学大学院非常勤

2. 理事長主たる著書等

- ①『ジグソーパズルで考える』総合型地域スポーツクラブ 大修館書店 クラブネッツ監修 (分担執筆)
- ②『健康運動の支援と実践』金芳堂 筑波大学教授 田中喜代次／大蔵倫博編著 (分担執筆)
- ③『コーチングのジレンマ』ブックハウス・エイチディ 慶応義塾大学講師 東海林祐子著 (インタビュー形式にて運動が苦手な子の教室の紹介)

7 「最近のマスコミ掲載」について

1. 千葉日報 (2020年12月10日 船橋市立小室小でのパラバドミントン出前授業)



2. NHK 首都圏ニュース (2020年10月7日 柏市立高田小パラバドミントン出前授業)



8 「今後の展望」について

1) スマイルタウンへ向けての活動

高齢者も障がい者もともに笑顔で住める街づくり（スマイルタウン）に向けての活動を促進することが目標です。特にスマイルクラブで働くことのできる障がい者の就労支援や、人生100年時代に向けてのソフト（カリキュラム等）開発を進めていく予定です。設立以来20年が経過し、当時10歳の障がい児が今は30歳の社会人となってきています。

本来は、スマイルタウンのように、スマイルクラブで働きながら、スポーツを楽しみ、人生を充実できるような環境を今すぐに実現したいのですが、まだまだそこには至っていません。しかし、いつかそれを実現し、さらにはスマイルクラブから日本代表選手も生まれるようなクラブになりたいと思います。

また人生100年時代の超高齢化社会は、スマイルクラブで積み重ねてきた障がい者スポーツのノウハウ（指導面やボランティア養成など）を、高齢者の誰もが車いすなどの障がい者になる可能性のある時代に、必ず活かせるようにしていく使命も感じています。

2) 新たな日本のスポーツの深化

オリンピック・パラリンピックでは、メダルを獲るために必死に日々激しいトレーニングや練習に取り組んでいます。ただし、メダルを獲得するためのスポーツではなく、日常生活の中にスポーツが入り、その中で人生が熟し、社会的自立を促進できるスポーツへと深化し、さらには新たな共生社会実現に向けての着実なステップにもつながるものへスポーツを深化させたいと思います。

3) ボランティアによる市民性の高まり

このような活動には、多くのボランティアの協力が大変重要であり、継続的にこの養成をおこない、ボランティアによる市民性の高まりとともにスマイルタウン実現にもつなげたいと思います。

4) 日本の総合型地域スポーツクラブとしてのモデル構築

日本の総合型地域スポーツクラブは全国で約3,600クラブ存在しており、地域に根付いた活動を継続していくためには、様々な住民の方々の要望に応じていく必要があり、そのためには障がい者や高齢者はもちろんのこと、心臓リハビリや認知症予防の医療連携等も検討していく必要性があり、そのことにより多くの地域住民から支持され、継続できると考えています。したがって今後さらに幅広い受け皿を用意できるように準備していく予定です。

5) 世界とのネットワーク構築

スマイルクラブでは設立以来、中国、韓国、タイなどアジアの様々な国の障がい者スポーツの指導に携わるネットワークを構築してきました。また、2019年10月に東京でアジア、ヨーロッパ、アメリカの講師を招き（医師等の医療関係者も含む）、国際ワークショップを開催し、少しずつではありますが海外とのネットワークも構築してきました。そこでは、発達障がい児は世界共通のテーマだということと、それを解決していくには医療関係者、福祉関係者、就労支援関係者等の幅広い組織連携も含めて対応していく必要があり、単にスポーツのみならず幅広い領域との連携を含め世界的ネットワークを構築していきたいと思います。

4 パラスポーツ紹介（パラバドミントン）

パラバドミントンは、東京 2020 パラリンピック競技大会から正式競技です。上肢や下肢に障がいのある立位クラスと車いすのクラスがあります。立位クラスのダブルスはバドミントンと同じルールで、車いすクラスは狭いコートでおこないます。

パラバドミントンは、世界的な広がりを見せており、世界バドミントン連盟（BWF：Badminton World Federation）が主催するパラバドミントン世界選手権大会は、2年ごと（奇数年）に開催されています。近年では、地域でおこなわれるバドミントン大会に車いすクラスを設置し、障がいのない人が車いすに乗って障がいのある人と一緒に参加するなど、障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとして注目されています。



スマイルクラブ主催パラバドミントン体験会

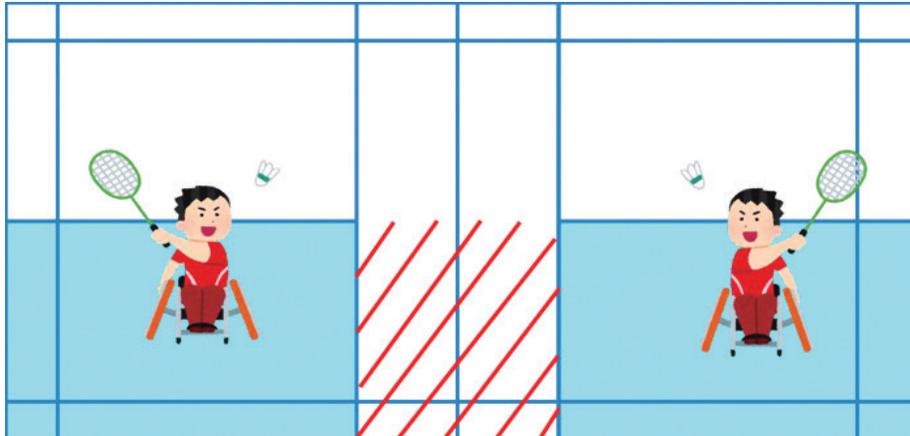
1. クラス分け

パラバドミントンは、大きく分けて「車いす」と「立位」があり、障がいの程度により以下の6つのクラスに分けられています。

1	WH1	車いす		シングルス 半面
2	WH2			
3	SL3	立位	下肢	シングルス 全面
4	SL4		上肢	
5	SU5	低身長		
6	SH6			

2. コート

車いすクラスと立位 SL3 クラスのシングルスは、半面で行います。車いすクラスはサービスラインより前（斜線部分）は、アウトです。



3. 競技用車いすと通常の車いす

競技用車いす



通常の車いす



両手はハンドリムの上部をつかむ。



打つ時は、両手を両輪から離すことも。



車いすを前に押すことを「プッシュ」といいます。両手でハンドリムの上部をつかみ、プッシュすると車いすが前進します。止めるときは、ハンドリムの前方を両手でつかみます。左手で左側のハンドリムを押さえると、内回り（左側）に動きます。

4. 車いすに乗ってバドミントンをしよう

●車いすに乗って動く



●車いす鬼ごっこ



●じゃんけん列車

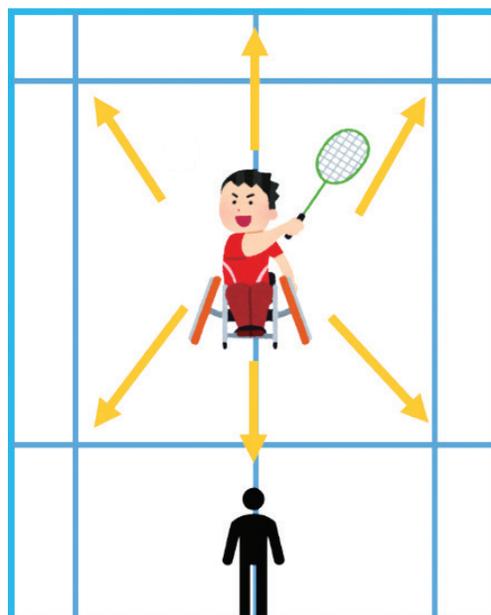


■チェアワーク

ネット前の人が指示役になり、移動する方向を指示します。

- ①ラケットなしで動く
- ②ラケットありで動く

最初はゆっくり指示を行い、慣れてきたらフェイント（前に指示を出すふりをして後ろ）などで楽しく動きを覚えましょう。



【千葉県のパラバドミントン選手紹介】

おおはま しん
大濱 真 選手

私は小学生から高校まで野球に励んでいました。大学に入り、3年の時に事故に遭い、車いす生活になりました。

医師からは一生車いす生活だと言われた時に、ずっとスポーツで生きてきた私が、足が使えなくなったら生きている価値があるのか？死んだほうがましだと思いました。

しかし、そこで助けてくれたのが友人たちでした。私の命が危なかった3カ月間の入院期間中、1日足りとも友人が来ない日がなかったです。そんな友人がいたからこそ、生きていこうと決意ができました。

その後、大学へ復学し、社会人になりましたが、自分のやりがいを見つけられずにいました。事故をしてから10年後のある日、たまたま両親から車いすバドミントンの体験会があるから行ってみたら？という誘いがあり、渋々参加することにしました。

それまでは車いすスポーツなんて、障がい者がやるものであって、レベルの低いもの、ちょっとやればトップレベルになれるだろうと思っていました。行ってみると想像以上に楽しく、難しさを痛感しました。そして、熱くこみあげるものがあり、これなら自分がどこまでできるかやってみたくて強く思い始めました。

そして、始めてから2年後に強化指定選手に選ばれ、去年は世界中を飛び回ってきました。車いすになってからはスポーツをしてこなかった分、車いすの操作と、バドミントンのショットの二つをトレーニングしなくてはならず、非常に考えさせられる日々を送っています。

2018年に、バドミントンを思い切ってできる環境を求め、アスリート雇用に転職（スマイルクラブ所属）しました。それからは週5日以上、1日5時間以上の練習をし、世界1位を目指して日々努力をしています。

2019年の世界ランキングは最高でシングルス11位、ダブルス13位でした。

そして、私には3人の子どもがいて、親が車いすであれば友だちから、いつかは「おまえの親は車いす」などと言われ、嫌な気持ちになることがあると思います。自分が頑張ることで、言われたとしても「父親は日本代表だ」などと子どもたちが自信を持って言える父親でありたいと思っています。



5 新型コロナウイルス感染症予防等

参加者のキーポイント

3密を避けましょう

体調が悪い時は参加しない

手洗い、マスク着用

日頃の体調管理も大切に

1. 日常生活の注意

1. 3密を避けましょう
2. 手指消毒、手洗い励行、マスク着用
3. 会食を控える：おこなう場合は3密を避け、可能な限り少人数、短時間で。
4. 体調管理は、快食、快眠、快運動



バランスの良い食事、良質な睡眠、心地よく身体を動かす生活を目指しましょう。散歩やジョギング、また自宅でストレッチやヨガなどの軽運動でも効果が期待できます。

2. スポーツを行う／スポーツイベントに参加する際の注意

1. 当日を含め、2週間以内に体調が悪い時（例：発熱・咳・咽頭痛、嗅覚や味覚の異常、全身がだるいなど）は参加を辞退しましょう。風邪かなと思っても、新型コロナウイルス感染かもしれません。
2. 同居家族など身近に感染が疑われる人がいる時も参加を辞退しましょう。
3. 持ち物
マスク、タオル、ドリンク、ティッシュペーパー、ビニール袋、防寒具^{*1}、携帯用消毒液（除菌シート）
*1：頻繁の換気のために会場が予想以上に寒い場合があります。
4. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合も参加は辞退しましょう。



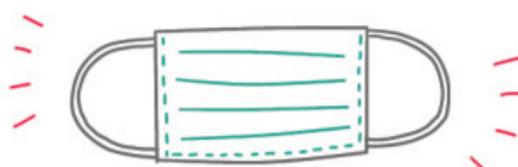
3. スポーツ会場での注意

1. 3密を避けましょう。

ミーティング、ロッカールーム、玄関など要注意です。慌てずに間隔を保ちましょう、時間に余裕を持って行動することも大切です。

2. マスク着用。

競技中はマスクを外す場合もありますが、競技が終わったら速やかにマスクを着用しましょう。



3. こまめに手洗い、手指消毒^{*2}を。

杖や車いすのハンドリムを触ったあとなど、手指消毒をまめにおこなうことができるように、携帯型の消毒液を持参していると便利です。

また介助者は、マスク、フェイスシールド、長袖の着衣、手袋使用を考慮してください。



^{*2}: 頻繁の消毒や手洗いは肌荒れの原因となります（特に乾燥する冬場）ので、保湿クリームもこまめに塗るようにしてください。またグリセリン（湿潤剤）入りの消毒液は使用することも肌荒れの予防になります。

4. ティッシュペーパーを上手く利用しましょう。

眼や顔をこする時^{*3}や、唾や痰を吐く^{*4}時はティッシュペーパーを用いるようにしましょう。

鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて持ち帰るか、縛って密閉した上で指定のゴミ箱に入れましょう。

^{*3}: ティッシュペーパーがない場合は自分専用のタオルやハンカチで代用します。

^{*4}: やむを得ない場合は、周囲を確認し飛沫の飛散に注意しましょう。

5. タオルやドリンクは自分専用のものを準備しましょう。

6. 飲食は、手洗いを行った上で、指定された場所で、周囲の人となるべく距離を空けて、対面を避け、会話は控えめにしましょう。

7. 応援はジェスチャーや手拍子などによるオリジナル応援を。大きな声で会話、応援等をしないようにしましょう。

4. 帰宅したら

まず手洗い。またシャワーもしくは入浴をなるべく速やかに。

1. バランスの取れた食事を摂り、快眠を。

2. イベント終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告を。

5. 管理者の注意事項

1. 3密を避ける工夫を。

換気扇を常に回すなど換気が必要です。さらに室内の温度並びに湿度（50-60%）の管理もできることが望ましい。

2. 参加者並びに入場者には、体温を測定と体調の確認をした上で、参加者情報^{*5}（氏名、電話番号を含む）

を提出してもらおう。

*5：参加者情報は1カ月保管、個人情報の取り扱いに留意する。

3. 受付窓口（会場入口）には、手指消毒剤を設置する。
人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどでさえぎる。
受付をおこなう者はマスク着用が原則、ただし聴覚障害者対応などにフェイスマスクで代用も可能。
4. 手洗い場には石鹸（自動型もしくはポンプ式が望ましい）を準備する。またペーパータオルを準備することが望ましい。手洗いが難しい場合は手指消毒剤を準備する。
5. 更衣室など密になりやすい場所は、換気や人数制限をおこなうことで3密を避ける。
6. 参加者が触れる競技用具や、ドアノブ・椅子などの室内備品はこまめに消毒をおこなう。
7. 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用（マスクや手袋を外した後は、石鹸と流水で手を洗うか、手指消毒薬を使用するかのいずれかを行う）。
8. 参加者から新型コロナウイルス感染症を発症の報告があった場合、速やかに保健所に連絡を取り指示を仰ぐ（大人数が参加するイベントなど、事前に開催自治体の衛生部局と検討することが望ましい場合もある）。

参考

スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

（令和2年5月14日 公益財団法人日本スポーツ協会 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会作成
令和2年10月2日改訂）

<https://www.jsad.or.jp/news/> スポーツイベントの開催に向けた感染拡大予防ガイドライン .pdf

社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

（令和2年5月14日スポーツ庁作成・令和2年9月29日改訂）

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200514-spt_sseisaku01-000007106_1.pdf

6 千葉県の活躍期待選手のインタビュー

選択肢が広がる社会へ

香西 宏昭 車いすバスケットボール選手

パラリンピックという言葉や、障害者スポーツの存在は、東京パラリンピックの招致が決まってからというもの、たくさんの方々に認知していただいたと実感します。認知度が上がってきたことにより、たくさんの方々に競技観戦しにきていただく機会が増えました。大歓声の中、試合ができることは選手として大変幸せなことです。しかし、認知度の向上が環境改善に直結しているわけではありません。まだまだ体育館の利用が許されない現状があり、練習環境にも苦慮しています。

例えば、新しくワックスをかけたから使わないでほしい、バリアフリーが整っていないから…などなど。

私はドイツでプロ車いすバスケットボール選手として6シーズンブンデスリーグに参戦しました。ドイツには総合型地域スポーツクラブが至るところに存在し、スポーツが文化・生活の一部になっているように見えました。ドイツでは、車いすバスケットのみならず、さまざまな障害者スポーツのクラブが総合型クラブの中にあり、私が所属していたチームもその総合型クラブの中にありました。日本ではなかなか見られない姿だと思います。

大学時代はアメリカのイリノイ州立大学に留学をし、車いすバスケットボール部員として約6年過ごしました。周りの人たちがとても協力的だったこともありますが、アメリカにいる間、自分が車いすユーザーであることを感じることはほとんどありませんでした。アメリカにはADA法という法律があることが大きな理由の一つだと思います。簡単に説明しますと『障害があることによって差別をしてはいけない』という法律です。自分の行動が制限されない感覚は、自分で考え、自分で選択する解放感と責任の両方を植え付けてくれたように思います。

障害のある人が何かスポーツをしたいと思った時、日本ではまだまださまざまなハードルがあるように思います。幸いにも私は、アメリカやドイツで多くの挑戦をし、充実した日々を送らせていただきました。それはハード面だけでなく、仕組や人々の意識などソフト面の環境が整っていたためであったように思います。スポーツを楽しむことも、競技として高めていくことも、スポーツをする上で障害があることが選択肢を狭めることのない社会になるよう、私にできることを考えていきたいと思っています。



写真提供：NO EXCUSE



スポーツを通して豊かな人生を

樋口 政幸 パラ陸上競技選手

私は 2003 年 24 歳で交通事故により脊髄を損傷し、以来、車いすを使用した生活を送っています。

スポーツをしようと思ったきっかけは、リハビリ中に会った理学療法士の先生の勧めでした。車いすでの生活は、消費カロリーが少ないので生活習慣病や血流不足による褥瘡などの合併症を引き起こしやすく、スポーツをすることで健康を維持できるだけでなく、体力が向上することにより行動範囲が広がり豊かな生活を送れるようになって教わったためです。



半年近い入院生活後、リハビリセンターに入所中、車いすマラソンに誘われ、初めはパラリンピックを目指すなど全く念頭になく、健康スポーツとして競技に触れていきました。

その中でタイムが向上し、大会での順位が少しずつ上がっていくことはもちろんやりがいがありましたが、体力が向上したことによって ADL、QOL が飛躍的に向上していったことがとても嬉しかったと記憶しています。

2013年に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が決定して以来、パラスポーツを取り巻く環境は大きく変化し広く認知されるようになり、選手の競技環境は飛躍的に改善されました。

それにより国内の競技レベルも徐々に向上してきていることはとても喜ばしいことだと思います。

しかし、その反面、競技人口は増えているわけではなく、むしろ減っていると感じます。

大分で開催されている国内最大の車いすマラソンでは 90 年代のピーク時 500 人近かった参加人数が、現在では 300 人を下回っています。

今は医療が向上し、そのうえ交通環境等が安全になったことにより障がい者の数が減っていることは大きな理由ですが、パラスポーツの敷居が高くなってしまったことも原因ではないかと思います。もちろん私自身、今は競技力向上を最優先に活動していますが、振り返ってみると健康スポーツとして取り組んでいた時の、それまで越えられなかった段差が登れるようになった、一人で旅行し手を借りることなく温泉に入った、遠方の県で開催された大会へ初めて自分で車を運転して行ったこと等は、今の良い競技結果が得られたことに劣らない喜びがありました。

今は障がい者スポーツはパラスポーツのみが注目されていますが、今後このパラスポーツの盛り上がりにより地域スポーツが発展し、多くの人が気軽にスポーツを始められるきっかけになり、生涯スポーツとして取り組む方が増えると望ましいと思います。そうなることで東京パラリンピックをやって良かったと言えるのではないのでしょうか。



令和2年度 スポーツ庁委託事業として作成
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

NPO 法人スマイルクラブ

TEL 04-7169-4183 FAX 04-7169-3303



Homepage <http://smile-club-npo.jp>

E-mail smile-c@jcom.home.jp

〒277-0858 千葉県柏市豊上町 23-29



編集・発行 NPO法人スマイルクラブ 2021年3月発行



surroundings where everyone can easily enjoy sports

SINCE 2000